



1/12 大変だけど、だから美味しい 雪下野菜の収穫(中原地内)



▲雪に覆われた広い農園での収穫

中原地内にある農園で、雪を掘りながらニンジンとカブの収穫が行われていました。秋から収穫が始まる野菜は、鮮度の良い状態でお客さまに届けるため、一度に掘り上げず、出荷に合わせて定期的に収穫されています。雪を掘りながらの大変な作業を行っていた農園のご夫婦は「皆さんに美味しいと言ってもらえると励みになる」と話し、地場産の食材をぜひ試してもらいたいと語っていました。

1/12 今年の干支「卯」を繭でクラフト 繭クラフトの作品展示(朝日シルクフラワー制作工房)

朝日シルクフラワー制作工房では、毎年12月半ばから朝日地域の特産である繭を使い、新年の干支が作られています。飾り物にするにはちょうど良いサイズであることから、来訪者にも人気があります。これからの時期は、朝日地域の保育園や小中学校で卒園や卒業式で身に着けるコースジュ作りが行われ、講師を担う朝日シルクフラワー制作工房は旅立ちの春に向け、ますます活躍するシーズンを迎えます。



▲かわいい作品が他にもたくさんあります

1/15 無限なる挑戦は続く 開志国際バスケットボール部総監督 富樫英樹氏講演会(情報センターほか)



▲目標設定の大事さを伝える富樫監督



▲「日本一」の指導を受ける生徒たち

昨年12月に開催されたウインターカップで優勝した開志国際高等学校バスケットボール部総監督の富樫英樹氏による指導者向け講習会がパルパーク神林で、講演会が情報センターで行われました。講習会には市内の中学校バスケットボール部の生徒と指導者が集まり、ハンドリングなどの基本動作を指導していただきました。会場には本市出身の相馬選手を含めた優勝メンバー5人も駆けつけ、生徒たちを指導してくれました。「日本一」の指導を受けた生徒たちは緊張した面持ちでしたが、サインをもらうなど、記念に残る一日を過ごしました。

講演会では、富樫監督の学生時代の生活や指導者としての経歴の中で苦勞した点など、ユーモラスで軽快なトークが繰り広げられ、会場の笑いを誘い和やか雰囲気でした。この日のために多くの質問が寄せられ、その中の「強い相手に挑むモチベーションは」の質問に富樫監督は、「目標設定が大事。負けてもすべての試合から学ぶことができる。そこから立ち上がっていく人が勝利者である」と話し、スポーツを楽しむながらも、日々の生活面からの心がけが大事だと語りかけていました。

12/27 県内の農家を代表して献穀者に選出 令和4年度新嘗祭で佐藤裕介さん(鋳物師)が粟を献穀

令和4年度新嘗祭で、佐藤裕介さんが新潟県内の農家を代表して献穀者に選ばれ、生産した粟を天皇陛下に献穀されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、皇居での献納式は行われず献穀のみの対応でしたが、この度、新潟県より献穀受納に対する伝達書と賜り物(盃)を受け取りました。



▲伝達書と盃を受け取った佐藤さん

1/7ほか 今年1年の健康を願って 賽の神行事(市内各地)



▲餅焼きなどを楽しむ子ども達

新年の恒例行事で、今年1年の無病息災を祈念する「賽の神」が村上市内の各地で開催され、多くの人が参加しました。正月飾りや古いお札などを燃やした火で焼いたスルメや餅を食べる事で、1年を健康で過ごせると言われるこの行事。寝屋集落の「賽の神」に参加した子どもたちは「熱い、熱い」と言いながら、竹竿での餅焼きなどを楽しみました。

1/8 一年間の無火災を祈念 村上市消防出初式(教育情報センター)

村上市消防出初式が執り行われ、分列行進と車両パレードでは、村上市消防団大竹団長を先頭に、各地域の方面隊や消防団広報指導分団「つくし隊」による行進が行われました。その後、情報センター内で行われた式典では、大竹団長より「我々消防団は地域の安全・安心を守る使命の下、日頃から地域に密着しながら、歩み続けてまいります」と年頭のあいさつがありました。



▲教育情報センター前での分列行進と車両パレード

1/11 お正月の伝統や遊びを楽しく学びました 新年子ども会(向ヶ丘保育園)



▲獅子舞に興味津々な園児たち

向ヶ丘保育園でお正月の伝統や遊びを学ぶ新年子ども会が行われ、園児たちは正月飾りの鏡餅やしめ縄を見たり、お年玉の由来や十二支のお話を聞き、お正月について知ることができました。会の後半には、今年も一年間、子どもたちが健康に過ごせるようにと、先生手作りの獅子舞が登場。積極的に頭を噛んでもらう園児もいれば、中にはちょっぴり怖くて離れて見ている園児の姿も。新年初の行事をみんなで楽しく過ごしました。